

～学校と地域の連携・協働ガイドブック～

地域連携の ススメ

【社会に関かれた教育課程】の実現に向けて
学校としてできること

令和3年3月

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

目次

I 地域連携の意義と効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- (1) 地域連携の意義
- (2) 社会に開かれた教育課程
- (3) 地域連携の効果

II 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

- (1) 地域連携活動の内容と流れ
- (2) 地域連携活動の手引き
 - ・計画の作成及び見直し
 - ・校内研修の企画・運営
 - ・情報発信と収集
 - ・地域との連絡調整
 - ・実践と評価・次年度に向けて

III 組織的・効率的な連携のために・・・・・・・・・・・・ 10

- (1) 学校の窓口となる地域連携担当の明確化
- (2) 地域連携担当の役割分担
- (3) 校内委員会の設置

様式集

- ・地域連携チェック表
- ・ボランティア登録申請書
- ・校内ニーズ調査用紙（年間）
- ・校内ニーズ調査用紙（学期）
- ・地域連携全体計画
- ・地域連携年間計画
- ・事前打ち合わせ用紙
- ・学校からボランティアの方へのお願い

IV 参考・引用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

(1) 地域連携の意義

近年、学校を取り巻く問題は複雑化・多様化し、学校だけでは対応しきれていない現状があります。そのため、地域と学校が互いにパートナーとして連携・協働し、未来の創り手となる子供たちに必要な資質・能力を育てていくことを目指すため、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。



(2) 社会に開かれた教育課程

2020年度より、小学校及び特別支援学校小学部で順次実施されていく学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が重視されています。これまで、各学校においては地域や児童生徒の実態に応じて、様々な地域連携の取組がされていますが、今後、その重要性は増していきます。

<社会に開かれた教育課程の3つのポイント>

- ①よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという目標を社会と共有します。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成します。
- ③地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現します。

(3) 地域連携の効果

地域と学校が連携・協働することによって子供・学校・地域へさまざまな効果が期待できます。

【子供へ】

- ・地域の人から愛情を注がれることにより、自己肯定感や思いやりの心が生まれる。
- ・地域の人たちと一緒に学ぶことにより、地域への愛着や担い手としての自覚が育つ。
- ・多様な人との関わりや多くの体験をすることで、社会性が育つ。 等

【学校へ】

- ・地域の人との関わりが生まれ、地域と学校の双方向の理解が深まる。
- ・地域の人々の専門的な知識・技能や地域資源を教育活動に生かすことができる。
- ・子供の教育に対する責任や役割を地域と学校で分かち合うことができる。 等

【地域へ】

- ・自分の経験や知識・技能を生かすことで、自己実現につながる。
- ・学校や子供への関わりを通して、地域住民同士のつながりが生まれる。
- ・学校が地域住民の社会参画の場となり、地域の活性化につながる。 等

II

活動の進め方

(1) 地域連携活動の内容と流れ

地域連携は、地域と学校の実態や学校経営方針を踏まえ、**地域と目標を共有**して進めていくことが大切です。また、地域の方との**連絡調整**をしたり、**学校内の体制**を整えたりする、「**学校の窓口**」(地域連携担当)を明確にしながらか学校全体で計画的に取り組んでいきます。

月	主な活動内容
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ニーズの掌握 ・活動ごとの情報発信 ・地域との目的の共有 ・活動ごとの連絡調整 ・活動ごとの経費の運用管理 ・外部会議・行事への参加
4	<ul style="list-style-type: none"> ・計画等の周知 ・各種様式等配付・取りまとめ ・関係者へのあいさつ
5	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の企画・運営
6	
7	
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の実施
10	
11	
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の実施 ・今年度の成果と課題
3	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けた計画等作成

地域
学
校
協
働
活
動



○地域と学校が相互の情報を共有します。

- ・学校だよりや地域連携通信
- ・HPや一斉メール
- ・地域情報誌や回覧板
- ・PTA総会や学級懇談会 等

○活動の目的や内容を踏まえ、連携先の情報を授業者に提供します。

- ・打ち合わせ用紙の作成、蓄積
(具体的な打合せは授業者が行います)
- ・学校からのお願い文書の作成
(守秘義務や人権配慮等に関する事項等)

○地域学校協働活動の充実には、教職員全体の理解が大切です。

- ・法令や答申の流れ
- ・県や市の取組
- ・学校における地域との連携場面の洗い出し
- ・ボランティアに対する共通理解 等

○活動実施後の評価を蓄積し、次年度の計画に生かします。

- ・活動の実施時期、内容、時間等
- ・各活動の成果と課題
- ・地域や保護者の声 等

○学校評価等を踏まえながらPDCAサイクルを活用して、できることから始めます。

- ・現状分析と課題把握
- ・全体計画や年間計画の作成
- ・学校評価や校内ニーズによる活動の検討 等

(2) 地域連携活動の手引き

1 計画の作成及び見直し

①現状の把握と課題の明確化

様式P11

自校の現状に合わせた計画を立てるためには、教育目標・児童・保護者・地域の実態を踏まえるとともに、前年度の成果や課題を把握してPDCAサイクルを作ることが必要です。

【例】

- ・地域連携チェックシートの活用
- ・地域連携活動の事後評価や学校評価の活用
- ・ミニ集会等を活用した地域住民やボランティアとの情報交換 等



②地域連携に係る全体計画の作成・見直し

様式P15

全職員の共通理解のもと、地域連携を進めるには全体計画を作成することが大切です。自校の実態に応じて、目標や課題を明確にして作成しましょう。

【例】

- ・地域連携全体計画の様式の活用
- ・近隣の学校との連携を意識した全体計画の作成 等

③地域連携に係る年間計画の作成・見直し

様式P16

計画的な活動を行うために、年間計画を作成しましょう。教科ごと、学年ごとに一覧にしておくとう便利です。また、既存の年間計画に地域連携のマークなどを示しておくことも有効です。

【例】

- ・地域連携年間計画の様式の活用
- ・既存の年間計画に地域連携のマークを記載
- ・校内ニーズ調査の結果を踏まえた活動の精査 等

2 校内研修の企画・運営

①地域連携の経緯や意義

地域連携を学校全体で進めるためには、**教職員一人一人**が地域連携の経緯や意義を理解することが大切です。

【例】

- ・法令や答申の流れ、学習指導要領での位置付け
- ・県や市町村の地域連携の計画や実情
- ・地域連携の意義や効果 等

②校内ニーズの把握

様式P13~14

校内のニーズを把握しておくことで、学校としてどのような支援が必要かを地域住民やボランティアと共通理解することができます。

【例】

- ・長期的なものや短期的なもの
- ・時期的なものや行事的なもの 等

③校内の地域連携体制の整備

様式P18~20

地域連携を組織的・効率的に進めるためには、**校内体制を整備**して役割や連携方法を確認することが大切です。

【例】

- ・ボランティアの連絡や受入れ方法
- ・校内環境の整備（地域連携コーナーや地域ルームの整備）
- ・情報発信や収集の方法
- ・近隣の学校との連携方法 等



④地域連携の具体化

地域連携を活発に進めるには、日頃から地域資源の活用を意識してPDCAサイクルで活動の見直しをすることが大切です。

【例】

- ・教科や領域での地域連携の活動の検討
- ・地域資源の活用方法
- ・地域理解の促進（自然・歴史・文化・産業）
- ・計画や活動内容の成果や課題の評価 等



3 情報発信と収集

①地域への情報発信

学校でどのような教育活動が行われているのか、学校はどのような支援を求めているのかを家庭や地域に発信し、知ってもらうことが大切です。

【内容例】

- 学校教育目標や年間行事予定
- 児童生徒の活動の様子
- 地域連携の取組
- ボランティアの募集や学校が求めること 等

【方法や機会例】

- 学校だよりや学年だより
- 学校のホームページや一斉メール
- 校内掲示板 等
- 授業参観日や保護者会
- 学校行事
- P T A総会やミニ集会 等



②地域からの情報収集

様式P12

地域でどのような団体がどのような活動を行っているか、地域は学校とどのようにつながりたいのかという情報を収集し、教職員が知っておくことも大切です。

【内容例】

- 自治会や団体の活動状況
- 児童生徒の通学や生活の様子
- 地域の避難場所や防犯への取組
- 地域資源
- ボランティアの希望 等

【方法や機会例】

- 自治会や団体の会議
- 地域の広報紙や回覧板
- 地域の掲示板
- 地区懇談会
- P T A総会やミニ集会 等



4 地域との連絡調整

①地域ボランティアへの連絡

地域ボランティアのまとめ役（地域コーディネーター等）がいる場合にはまとめ役へ、いない場合にはそれぞれの地域ボランティアの代表へ、**地域連携担当が連絡**します。また、該当する地域ボランティアが不明な場合には、ボランティアを紹介してくれる機関に相談することも有効です。連絡の際には、活動の目的や内容、打合せの日時などを伝えます。

【連絡先の例】

- 地域ボランティアのまとめ役（地域コーディネーター等）
- 公民館や生涯学習センター
- 自治会や青少年健全育成団体
- 博物館や図書館、高等教育機関
- 市町村の生涯学習や社会教育の関係課
- 企業やNPO団体 等



②地域ボランティアとの具体的な調整

様式P17~19

地域連携担当が打合せの日時を調整したら、**具体的な調整は授業者が行います**。打合せは、書面を活用し共通理解を図ることが大切です。また、支援の内容だけではなく、守秘義務があることや言葉遣い等にも気を付けてもらうこともしっかりと理解してもらいます。

【打合せの内容例】

- 活動日時や対象
- 活動目的や内容
- 準備物や役割分担
- 連絡先や連絡事項
- 児童生徒との接し方
- 守秘義務や人権（ジェンダーや体罰）への配慮
- 困ったときの対応の仕方 等

【作成物例】

- 事前打ち合わせ用紙
- ボランティアの方へのお願い
- ボランティアの方への案内 等



5 実践と評価・次年度に向けて

①実践と評価

様式P17

地域連携活動を実践する中では、予定外のことが起こることも少なくありません。実践後には打ち合わせ内容とともに記録を残し、次年度に生かします。また、活動ごとの成果や課題を確認したり、地域連携の取組全体を学校評価等で明らかにしたりすることも大切です。

【実践評価の視点例】

- 活動により目標が達成されたか。
- 事前準備や当日の運営は適切だったか。
- 児童生徒や地域ボランティアの方は楽しそうに活動していたか。 等

【学校評価の視点例】

- 学校教育目標に保護者や地域住民の意見が反映されているか。
- 地域資源が学校教育に生かされているか。
- 学校と地域の情報交換が適切に行われているか。 等

②活動の引継ぎ

地域連携は学校全体で組織的に行うことが大切です。そのためには、日頃から情報を蓄積・更新し、次年度に確実に引き継げるようにします。

【引継ぎ例】

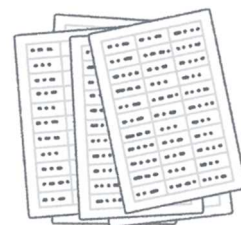
- 学年ごとの活動記録を蓄積し、年度末に地域連携担当が集約
- 活動ごとに記録を作成し、その都度、地域連携担当へ渡す
- 地域連携のフォルダ（電子データや紙媒体）を作成し、蓄積する 等

③人材リストの作成

活動実践の記録とともに、活動に参加していただいた地域ボランティアの人材情報も蓄積しておくことで、継続的な活動をすることができます。

【人材リスト例】

- 氏名や連絡先（個人情報の取扱いには注意します。）
- 活動学年や内容
- 活動年数
- 得意分野 等



Ⅲ

組織的・効率的な連携のために

(1) 学校の窓口となる地域連携担当の明確化

地域連携を組織的に進めるようにするためには、学校の窓口となる地域連携担当を決め、地域の方へ明確にすることが大切です。また、地域連携担当を複数にすることで、業務を分担することができるため、効率的な活動ができるようになります。



(2) 地域連携担当の役割分担

地域連携担当には、「Ⅱ 活動の進め方」にもあるように、計画の作成から校内研修、情報発信や地域との連絡調整と業務が多岐にわたります。そこで、これらの業務を役割分担し、組織的・効率的に地域連携をすることも大切です。

本県では多くの学校において、地域との窓口を教頭（副校長）が担っていますので、「地域連携担当①」を一般の教職員等が、「地域連携担当②」を教頭（副校長）が担当する場合の役割分担例を示します。

地域連携担当①	地域連携担当②
<p>○<u>校内</u>向け業務</p> <ul style="list-style-type: none">・地域学校協働活動に係る校内ニーズの把握・校内研修の企画、運営・地域学校協働活動に係る全体計画作成・地域学校協働活動に係る年間計画の取りまとめ・校内外に向けた情報発信 等	<p>○<u>校外</u>向け業務</p> <ul style="list-style-type: none">・地域との目的の共有・地域ボランティア（地域コーディネーター等）との連絡調整・地域学校協働活動に係る経費等の運用管理・外部会議、地域行事への参加 等

※地域連携担当①をさらに複数とすることも考えられます。

(3) 校内委員会の設置

地域連携を継続的に行うためには、地域連携に関する業務を地域連携担当のみで実施するのではなく、学校全体で組織的に行うことが求められます。地域や学校の実情によっては、地域連携に係る校内委員会等を設置して地域連携を進めることも考えられます。



地域連携チェックシート

	地域連携に関する評価項目例	評価	対応方法
1 学校全体の取組について			
①	地域連携に関する計画や年間活動計画を作成し、全教職員間で確認した。		
②	地域連携に関する校内研修を位置付けて実施した（実施予定である）。		
③	地域連携に関する必要な情報を、適切な機会に保護者や地域住民へ伝える工夫をしている。		
④	地域連携に関する計画や活動について評価を行い、その結果を教職員や保護者、地域住民等で共有する工夫をしている。		
⑤	地域連携の学校側の窓口を校務分掌に位置付ける等明確にしている。		
⑥	地域連携担当の教職員を複数名配置している。		
⑦	地域連携担当の教職員の職務分担を明確にしている。		
2 教職員の取組について			
①	教職員は、地域の特色について理解している。		
②	教職員は、保護者や地域住民とのコミュニケーションを積極的にとっている。		
③	教職員は、地域連携の目標や努力点、具体策等を理解し、自分の担当教科等に地域連携活動を取り入れた授業を実践している。		
④	教職員は、地域と連携を図った授業や活動の成果を積極的に保護者や地域住民へ伝えている。		
⑤	教職員は、活動について評価を行い、その結果を次へ生かす工夫をしている。		
⑥	教職員は、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールについて理解している。		

〇〇年度ボランティア登録申請書

申込日 年 月 日

ふりがな		性別		生年 月日	
氏名		性別		生年 月日	
住所	〒 -				
電話番号		メール			
内容	活動分野	指導・支援内容（番号に○で囲んでください。）			
	A 環境整備	1. 校庭・備品等の整備 2. 図書整理			
	B 登下校安全確保	3. 学内安全パトロール 4. 登下校の見守り活動			
	C 学校行事支援	5. 学校行事の支援 (プール監視、マラソン大会見守り等)			
	D 地域教育支援	6. 地域学習 7. 昔遊び			
	E 学習支援	8. 教科指導補助(家庭科、図工等) 9. 放課後補充学習や朝学習(本の読み聞かせ)			
	F 校外学習	10. 校外学習引率			
	G クラブ活動支援	11. クラブ活動・部活動支援			
	H その他	12. その他			
趣味 特技	可能な範囲でお書きください。(他にも資格、免許、指導歴等)				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・活動上の特記事項をご自由にお書きください。 ・都合のよい曜日は(月 火 水 木 金 土 日 全て)です。 ・なるべく()曜日は避けて連絡してもらいたいです。 ・電話は、()時頃かけてもらえると出やすいです。 				

※個人情報の目的外使用はしません。

活動する上で知り得た情報は、他者へ漏らしません。 自署 _____

校内ニーズ調査用紙（年間）

今年度の授業や学校行事等の中で、地域ボランティアの協力を希望する場合は、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。＜提出期限 月 日（ ）＞

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数)
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

校内ニーズ調査用紙（学期）

今学期の授業や学校行事等の中で、地域ボランティアの協力を希望する場合は、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。＜提出期限 月 日（ ）＞

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 （依頼内容・時間数）	必要な地域人材・団体等 （人数）

校内ニーズ調査用紙（随時）

授業や学校行事等の中で、地域ボランティアの協力を希望する場合は、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。＜提出期限 月 日（ ）＞

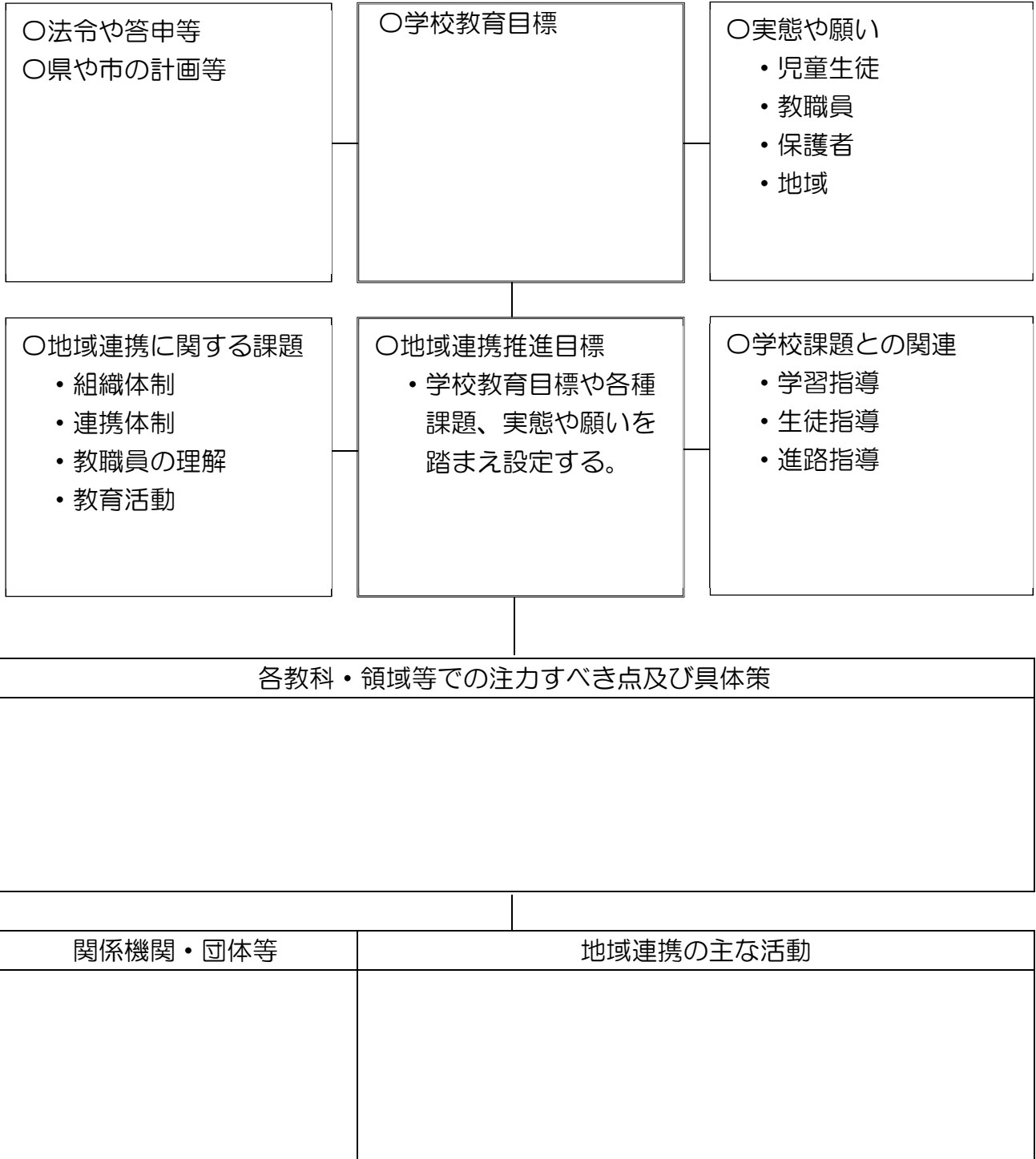
【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 （依頼内容・時間数）	必要な地域人材・団体等 （人数）

※具体的に書いてください。

〇〇年度 地域連携全体計画

〇〇立〇〇学校



〇〇年度 地域連携年間計画

(☆：昨年度実施)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	☆教科等 单元名 団体名			☆教科等 单元名 団体名					☆教科等 单元名 団体名		
2年			教科等 单元名 団体名				☆教科等 单元名 団体名				
3年		☆教科等 单元名 団体名								教科等 单元名 団体名	
4年			☆教科等 单元名 団体名			教科等 单元名 団体名		☆教科等 单元名 団体名			
5年	☆教科等 单元名 団体名				☆教科等 单元名 団体名					教科等 单元名 団体名	
6年	☆教科等 单元名 団体名			教科等 单元名 団体名							☆教科等 单元名 団体名
特支・全校	☆全校遠足 見守り隊	☆運動会 会場設営		☆水泳学習 監視員			特支発表会 会場設営	☆マラソン 見守り隊			

打ち合わせ用紙

年 月 日

活動日時	年 月 日 ()	活動時間	:	~	:
	予備日 月 日 ()	活動時間	:	~	:
対象					
活動場所					
活動名					
ねらい					
活動内容					
準備					
役割分担					
連絡事項	<input type="checkbox"/> 集合時刻 <input type="checkbox"/> 資料等 <input type="checkbox"/> 学校からのお願い <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 集合場所 <input type="checkbox"/> ボランティア保険 <input type="checkbox"/> 経費		
連絡先	ボランティア代表名		担当教職員名		
	連絡先				
活動日	年 月 日 ()	活動時間	:	~	:
次年度に向けて					

※活動後、記入しファイルに綴じてください。

学校からボランティアの方へのお願い

〇〇学校

- 1 玄関の訪問者名簿に入校時刻を記入し、名札をつけてください。お帰りになる時も、名簿に退校時刻を記入してください。（約束の時間に間に合わない場合は、すぐに御連絡ください。）
- 2 子どもたちと接するときには、ボランティアの方も指導者です。
 - ・子ども一人一人の人格を大切に、公平に接してください。
（名前の呼び方や「男だから・女だから」などの性差別表現に気を付ける。）
 - ・子どもの努力を認め、ほめることを大切にしてください。
 - ・体罰や暴言は禁止です。
（子どもの容姿や体型、家庭環境、能力や態度等に配慮した言動を心がけてください。）
 - ・政治、宗教、営利目的の活動は禁止です。
 - ・連絡先（LINEなどのSNSを含む）の交換は禁止です。
- 3 子どものプライバシー保護のため、子ども及びその家庭状況等について知り得た秘密事項を外部へ漏らしたり、画像等をインターネット等へ投稿したりすることは禁止です。
- 4 子どもたちも私たちも、皆さんと一緒に楽しみながら活動していきたいと思しますので、何か気付いたことや困ったことがあったら、ぜひ伝えてください。
- 5 事前検温やマスクの着用等、感染症予防対策に御協力をお願いします。なお、体調がすぐれないと感じる場合には、お休みください。



ボランティア各位

年 月 日
〇〇学校

〇〇についての御案内

平素より、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。
今回の活動の日程等をご案内しますので、ご確認ください。

日 時 月 日 () 時 分～ 時 分

集合時刻 時 分

集合場所 _____

活動内容 _____

準備等 _____

その他

- ・活動中に知り得た情報は、守秘義務が発生しますので、他者に漏らすことがないようにお願いいたします。
- ・お問合せ等は担当までご連絡ください。

【担当】第〇学年 氏名 _____

電話 _____

①地域とのパートナーシップを築きましょう

地域の方は「部外者」ではなく、子どもたちのために連携・協働する「パートナー」であることを認識しておきましょう。

②目的・役割を決め、共有しましょう

連携・協働するためには、活動の目的や相互の役割等をきちんと決めて、共有することが大切です。

③互いに学び合いましょう

地域の方からの意見や相談にしっかりと耳を傾けましょう。また、活動の中で良かったことや気づいたこと、工夫してほしいことを伝え合いましょう。

④笑顔で明るくあいさつをしましょう

笑顔で明るいあいさつは心がほぐれます。気軽にあいさつを交わし、全職員で気持ちよく対応しましょう。

⑤交流の場をもちましょう

地域の方との交流の場をつくりましょう。お互いの思いが伝わり、信頼関係が生まれ、活動にも広がりや深まりができます。



※コピーをして教職員に配布するなどして共通理解を図りましょう。

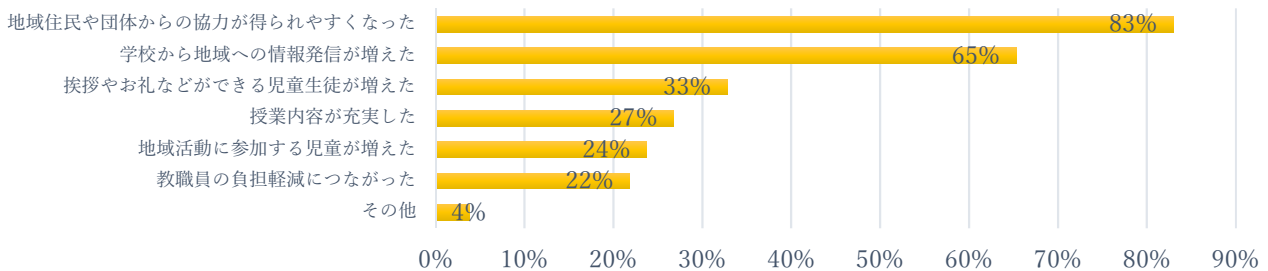
調査名：地域との連携に係る実態調査

調査期間：令和2年10月

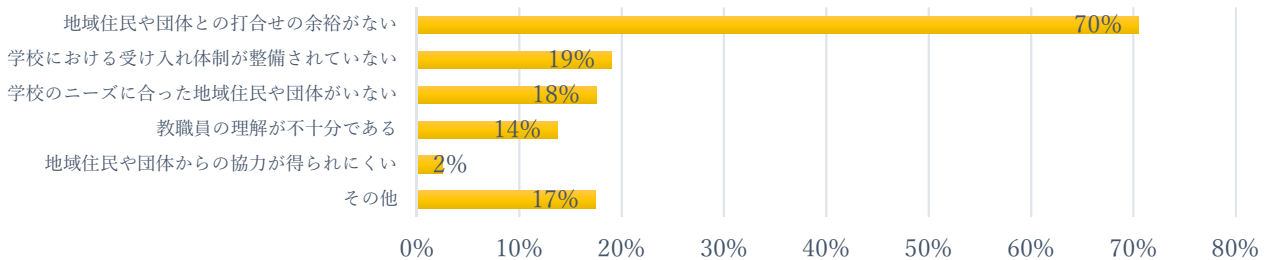
調査対象：県内（政令市を除く）公立小中学校、県立学校、特別支援学校

回答数：1057校

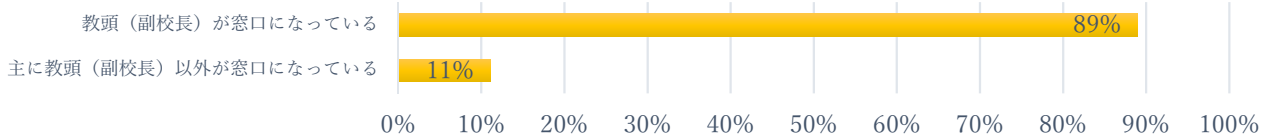
①地域住民や団体との連携（PTA含む）の効果について（N=1057）



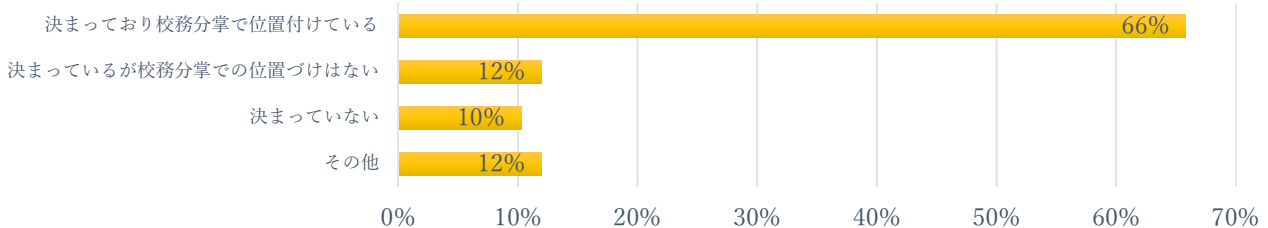
②地域住民や団体（PTA活動含む）の課題について（N=1057）



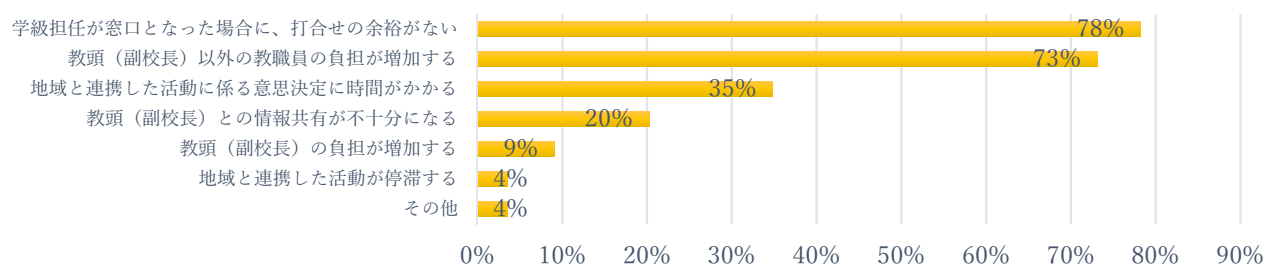
③地域ボランティア（PTA活動を含まない）との窓口について（N=1057）



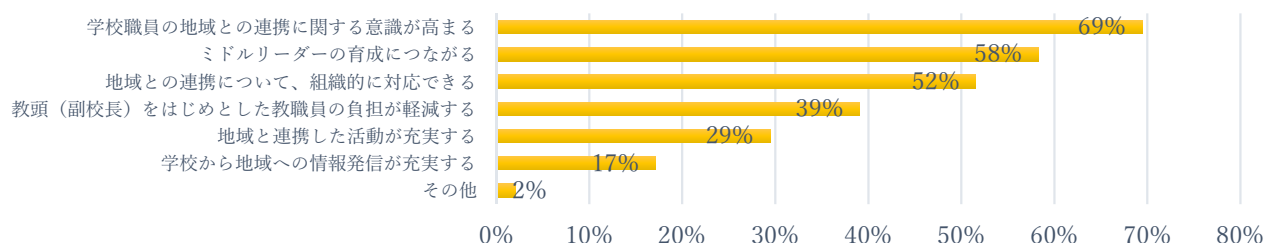
④地域ボランティア（PTA活動を含まない）との窓口担当者について（N=117）



⑥教頭（副校長）以外の地域ボランティア（PTA活動を含まない）との窓口担当者を決めることによる課題について（N=1057）



⑤教頭（副校長）以外の地域ボランティア（PTA活動を含まない）との窓口を決めることによる効果について（N=1057）



文部科学省

「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」 2017年

「これからの学校と地域」 2020年

文部科学省HP www.mext.go.jp

栃木県教育委員会

「学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック」 2016年

岡山県教育委員会

「地域から信頼され応援される学校づくり ～地域学校協働活動のススメ～」 2017年

福島県教育委員会

「地域と学校の連携・協働のてびき」 2019年

新潟県教育委員会

「地域とともに歩む学校づくりに向けて」 2019年

学校支援活動から地域学校協働活動へ

地域連携と一口にいても、そのかたちや内容は時代とともに変化してきました。従来は、地域住民が学校のお手伝いをする「学校支援活動」と呼ばれ、学校の花壇整備や登下校の見守りなど、いわゆる“縁の下の力持ち”の役割を果たしていました。現在は、それらの学校支援活動以外にも、放課後の学習や体験活動、地域合同防災訓練、郷土学習など幅広い活動を含み、さらに、一方的な支援から連携・協働という双方向のつながりをもった「地域学校協働活動」へと発展しています。



～地域連携担当教職員活用ガイドブック～
地域連携のススメ

2021年3月

発行 千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

検索

